

30年度教育行政執行方針(要約)



教育長 辻 俊行

教育委員会として平成30年度に重点的に取り組む施策について申し述べます。

1 変化する社会を 生きる力の育成

各学校において主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組みます。

また、特別の教科道徳の指導の充実に努めます。小学校においては、算数科の指導を充実するために、非常勤講師の配置を継続するとともに、英語の教科化に向けて、外国語の指導助手を配置するほか、アフタースクールを拡充します。中学校においては、免許外指導の改善のための非常勤講師の配置を継続します。

また、学校司書を配置し、読書環境の整備や児童生徒の読書活動の充実に努めます。

いじめの問題につきまして、は、学校、家庭、地域、関係機関などと緊密に連携しながら、未然防止の取り組みを進めるほか、重大事態への対応

を強化するための体制づくりを推進します。

また、PTAや関係団体と連携しながら、ゲームやスマートフォン使用などのルールづくりを進めるほか、体力向上に向けた体育の授業、性教育や薬物乱用防止に関する指導の充実に努めます。

さらに、小学生を対象にしたフッ化物洗口の取り組みを進めます。

より安全で安心な給食の提供と、函館産農水産物の使用拡大に努めるとともに、異物混入防止対策の強化を進めるほか、食物アレルギーを有する子どもへの対応の充実に努めます。

また、登下校の安全確保に努めるとともに、防犯など地域社会、家庭との連携を図った取り組みを推進します。

特別支援教育に関するニーズの多様化に対応するため巡回指導員や支援員、サポートチームを引き続き効果的に活用するとともに専門機関との連携により支援に努めます。

不登校対応につきましては適応指導教室および相談指導学級において支援に努めるほか、児童相談所、フリースクール、NPO団体などと連携した取り組みを進めます。

就学援助につきましては、新入児童生徒学用品費等の入学前支給を引き続き行うほか、収入認定基準を引き上げ、対象者の拡大を図ります。

2 地域とともにある 学校づくりの推進

コミュニティ・スクールの導入を進めるとともに、中学校区内の小・中学校において教育目標やめざす子ども像の共有を図り、義務教育9年間を見通した取り組みを推進します。

また、教員が子どもと向き合う時間の確保や教員の負担軽減のため、校務支援システムの導入や部活動における外部人材の活用、学校閉庁日、部活動休養日の設定などを進めます。

さらに、南北北海道教育センターでの集合研修のほか、指導主事が学校を訪問して行う出張研修などを実施します。

学校再編につきましては、本年4月には青柳中学校と巴中学校を開校するとともに、高盛小学校、千代ヶ岱小学校、金堀小学校の統合校につきましては、31年4月開校に向け、準備を進めます。

市立函館高校につきましては、進学重視型単位制高校として、創意ある教育課程を編成し、魅力ある高校づくりを進めます。

3 函館への愛着や誇りと 未来へ飛躍する力の育成

函館の歴史や文化、自然などを教材として活用し、函館のまちの良さを感じることものできる教育活動を推進します。

また、高校生を対象とした海外留学事業を実施するとともに、望ましい職業観・勤労観などを身に付けることをめざすキャリア教育の充実に努めます。

4 生きがいを創り出す 生涯学習の推進

まなびつと広場や高齢者が楽しみながら知識や教養を身に付け、仲間づくりを通して生きがいのある生活を実現できる学習の場を提供します。

また、引き続き学校開放を実施するほか、学校図書館の地域開放に取り組みます。

5 心の豊かさを育む 文化芸術の振興

青少年芸術教育奨励事業、文化芸術アウトリーチ事業を実施します。

また、はこだてカルチャーナイト、市民文化祭を開催するなど地域に根ざした文化芸術の振興を図ります。

このほか、引き続き市民会館の耐震等改修工事に取り組むとともに、亀田地区統合施設の新築工事に着手します。

文化遺産の旧函館区公会堂の保存修理、垣ノ島遺跡の整備や五稜郭跡の堀の石垣改修に引き続き取り組むほか、函館ハリストス正教会の耐震診断および遺愛学院の保存修理事業の費用を助成します。

また、北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録に向けて、関係自治体や地元関係団体と連携した取り組みを一層進めます。

さらに、地元町会が実施する四稜郭の芝桜の植栽にかかる取り組みを支援します。

博物館では、企画展を開催するほか、箱館戦争開戦150年にあわせ、箱館戦争に関する資料展示を拡充します。

6 健やかな心身を育む スポーツの振興

子どものスポーツ機会の充実やライフステージに応じたスポーツ活動の推進を図るとともに、各種スポーツ団体等と連携し、各種競技大会の開催やスポーツ合宿および大会の誘致に努めるほか、プロスポーツ公式戦を開催し、市民のスポーツへの関心を高めます。

また、3回目となる函館マラソンのさらなる充実に努めます。すほか、函館フットボールパークのクレーサッカークラウンドの天然芝化に引き続き取り組みます。